

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、これより令和2年度第8回臨時教育委員会会議を開会いたします。</p>
<p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>本日は、5人の委員が出席しているので、この会議は成立しております。会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、会議規則第14条第2項の規定により、泉委員と西山委員とします。</p>
<p>日程第1 協議</p>	
<p>・協議 令和3年度（2021年度）使用中学校教科用図書採択について（道徳・地理・家庭）</p>	
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議「令和3年度使用中学校教科用図書の採択」について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>廣瀬泰幸 教育センター 一副所長</p>	<p>協議について説明します。令和3年度から中学校で使用する教科書全16種目の採択をお願いします。そのうち、本日は「道徳」「地理」「家庭」についてご協議をお願いします。</p>
<p>まず、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。</p>	
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>まず、「道徳」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>〈岩野智典 研究記録員 説明〉</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明します。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>〈廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明〉</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>ただ今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議に入ります。ご意見・ご質問がありましたらお願いします。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>2番目の観点の「いじめ問題」に関して、日文は非常によくできているというのは、私もそう思いました。ただ、1番目の「深い学び」のところで議論された題材を全部比べてみるとですね、生徒の共感を引きやすいものは学研の題材ではないかと、SNSのですね。学研は1番目の観点と2番目の観点は同じ題材で議論されましたよね。ちょっと他とは議論のされ方が同じではなかったもので、分からなかったところはあるんですが、学研の24頁の「うわさで決めるの？」は非常にいい題材で、生徒が考えやすい、そして、自分たちの問題として考えやすいいい題材だと思いました。それから、光村のですね、36頁「私の話を聞いてね」も、非常にいい題材だと思う。全体的に、障がいのある人に対する記述が少ない、今回の教科書は、全てにおいて。ただ、ここだけそれがあって、様々な方々に対する相互理解が</p>

<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>深められるというところが、非常にいい題材だと思っているところです。</p> <p>まず、感想から言いますと、いじめに関するテーマを1学年で3カ所、1学期・2学期・3学期に配置してあるつくり方をしていた日文でしたか、それは非常にいいなと思いました。</p> <p>目次を見ながら思ったんですけども、だいたい35教材でそれぞれ組み立てはしてありますけれど、その中で、それをユニットとしてテーマごとに分けてあるということは分かります。その中で、私が特徴的なのかなと思ったのが、先ほどの説明にありましたように、東書の2時間扱いということですね。特にじっくり取り組むという意味で、東書の2時間扱いのようなことはよいと思いました。</p> <p>それと、学研は「ユニット学習」という表現がされていて、ユニット学習というもののやり方は、先ほどのその2時間扱いというのとは違って、テーマがまとめてあるというだけのことなのか、そこをお伺いしたいと思いました。</p>
<p>山川博之 研究員代表</p>	<p>重点的に扱うという意味では、2時間扱いもユニット学習も同じ部分があります。ですが、ユニット学習の場合は、教材を変えて重点的に扱うというところがありますので、この点で異なる部分が出てくると思われまます。例えば、2時間扱いという点で、意図的に異なる2つの教材が組んであってそれを2時間で扱うこともあるし、指導者によっては、生徒の実態に応じて1つの教材を2時間で扱うこともあります。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>今の話だと、先生が学校の裁量でそういうふうにしてテーマを扱うこともあるということだったが、そもそも35教材でつくるのではなくて、例えば26教材でつくっておいて、その中のここは2時間扱いみたいな教科書のつくり方も、今後はあって良いように思いました。これは意見です。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>日文には「プラットホーム」というものがいくつか教科書の中に、例えば35頁とかに入っていますけれども、こういうものが題材以外に考える機会になって、あるいは考える方向性というか、そういったものを示すものになっていて、とても良いのではないかと思います。こういうものは、他の教科書を見たら分からなかったのですけれども、日文以外には何かあるのか教えていただけたらと思います。</p>
<p>山川博之 研究員代表</p>	<p>現場にいるものとしてですね、コラムの活用としては、例えば、今ご指摘いただいた日文の1年35頁の「プラットホーム」の図は、私も6月の「いじめ根絶強化月間」での集会の中で、昨年度も今年度も使って生徒たちに話したところでもあります。</p>
<p>岩野智典 研究記録員</p>	<p>各教科書会社、日文のようなコラムがございます。例えば、東書の「プラス」と書かれたところには、名言、格言、詩、歌、人物の紹介などのコラムがございます。教出には、例えば1年87頁に「防災について考えよう」というコラムがあります。いじめ防止に向けてのコラムなどがございます。光村はですね、各学年共通して「人と人との関係づくり」「共生」「環境」「国際理解」というテーマでコラムが掲載してあります。学研も、例えば、関連</p>

泉薫子 委員	<p>情報として「クローズアップ」が掲載されています。最後に廣あかつきなんです。例えば、教材と合わせて活用できる資料頁として「thinking」がございませう。</p>
泉薫子 委員	<p>各教科書会社、よくまとめてあると思うんですけども、道徳で何を学ぶかというところを見比べていきまして、中学生の期間は、自我が確立していくということで、「自分について考える」「身近な人との関わり」そして「社会」というふうに、視野が広がっていく時期だと思うんですけども、そういうことを明確に考えてつくってある教科書は、光村と日文と東書で、世界に広がるよう考えてつくってあると感じています。光村は、その中でも、1学年の時期に合わせてそれに応じた題材を掲げてあって、「自覚をもって」「広い視野で」というふうに世界を広げていっているというイメージがよくできていると思いました。感想です。</p>
泉薫子 委員	<p>いじめについての取り扱いは、日文は非常によくできておりまして、そこに力を入れるということも教科書に明確にテーマを掲げ、枠をつけて取り扱ってあります。これからのいじめというものは、SNSの問題というのがやはり大きくて、様々な誹謗中傷の問題が今起きているので、取り上げていただきたいと思っているんですけども、そういう題材について取り扱ってある教科書は、先ほど学研にはありましたが、その他の教科書ではどうなのかという点と、身近な問題が取り上げられているかという点と、2点教えていただきたいと思います。</p>
岩野智典 研究記録員	<p>例えば、東書2年86頁には、メッセージアプリについてということで、使い方次第で人間関係が良くもなるし悪くもなるという両面について考えることができるようになっていきます。教出は、例えば、2年70頁の「SNSとどう付き合う？」という教材では、SNSによる友達とのトラブルに加え、知らない人とつながっていくとどういったことが起きる可能性があるのかについても考えを深めることができるようになっていきます。74頁には「SNSについて考えよう」というコラムも掲載されており、考えを深めることができるようになっていきます。このようなSNSの問題に関する題材については、各教科書会社取り扱っております。</p>
西山忠男 委員	<p>Web教材の比較をちょっと見せてください。光村のみ朗読音声が多数含まれているということだったけれども、これはどういう教材なんだろうかと。</p>
岩野智典 研究記録員	<p>教材文を朗読する音声があるWeb教材であります。</p>
西山忠男 委員	<p>どういう考え方でそういうWeb教材があるのですか。</p>
山川博之 研究員代表	<p>要するに、教師が教材文を範読する場合がありますし、ここでは、生徒が音声を聴きながら考えることができるようにしてあると思われませう。</p>
西山忠男 委員	<p>それは、教育上、どれくらい有効なんだろうかと。</p>
山川博之 研究員代表	<p>デジタル音声の読み方に良さを求めることもありますし、教師がデジタル音声を意図的に止めて、主発問をしたり補助発問をしたりしながら授業</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>を展開するという工夫もできます。</p> <p>前回、中学校の道徳の教科書を選んだ時、日文を選んだ理由については、一つはいじめ問題に関して詳しく取り扱っていることでしたけれども、もう一つは、設問とかが詳しく書いてあるということがあったと思います。ただ、教科書展示会の学校からの意見を見ると、「発問があらかじめ印刷されていた」ということに関して否定的な意見が多くて、また、「巻末のノートは不要」「ロールプレイが多すぎる」など、前回、日文を選んだ理由が現場からは結構評判が良くない部分があるようですが、そこに関してはどのように考えられているのでしょうか。</p>
<p>山川博之 研究員代表</p>	<p>まず、ノートを見ていただきたいのですが、現在使用しているノートには、教科書と同じような発問が載っています。ただ今回は工夫されていて、ノートは、教科書の発問の部分が空白になり、指導者によって発問の工夫ができるようになっていきます。また、自分の意見と友達の意見を記入する欄が現在は上下に並んでいたんですが、比べやすいように隣同士に並記されている点も工夫されている点かと捉えております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>前回と比べて日文がどうだったという部分よりは、前回選んだポイントがちょっと違っていたのではないかとということですが、その部分はどうか。</p>
<p>岩野智典 研究記録員</p>	<p>その点についてなんですけれども、発問がノートに書いてあるということで、そのままノートに書いてある発問をしなければならぬと思われたのかもしれませんが、ただ、現在使っているノートは発問が記載されているが、このノートがあることで、教職経験のあるなしに関わらず、授業を進めることができるという点が良いと考えています。また、発問を考える際、ゼロベースではなく、発問が示されているからこそ、それをもとにして「この発問をしたらどうという反応があるのだろうか」と先生方の考えがさらに深まったと思われまます。</p>
<p>山川博之 研究員代表</p>	<p>ノートに記載してある発問を変える場合は、自分でワークシートをつかって授業後にその頁に貼っていくようにするという工夫を先生方はされています。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>今おっしゃったように、前回も、初心者でも誰でも同じように授業ができるということの一つ重視してあったわけですがけれども、実際使ってみたら、ちょっと決まりすぎているという意見があったということで、前回の選定のポイントをもう一回考え直して、やっぱり日文でよかったのだろうかという点は検討されたのでしょうか。</p>
<p>山川博之 研究員代表</p>	<p>そこは、研究員の中では、今現場で使っているからこそ、今使っている教科書はどうかという視点で研究を進めたところもあります。また、今の教科書を使ったからこそ、なおさらそれを深めたいということも聞きつつ教科書を読み進めたところもありますので、そこは、先生方は、教職経験あるなし含めて教材研究をされてきたというところは感じております。</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>もう一点別の話なんですけど、教科書展示会の一般からの意見で、東書について、「個人の権利よりも義務を強調している」というような意見がありました。どのような点をそう指摘されているのか、もし分かれば教えてください。</p>
<p>山川博之 研究員代表</p>	<p>ご意見に該当するところは、おそらく東書3年191頁「郷土のことを考える」の中で紹介されているハンナ・リデルのことだと思います。人権教育指導室に確認したところ、問題はないということです。かつて副読本作成に関わりその中でハンナ・リデルについて調査し紹介しておりますが、問題はないと捉えております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>ハンセン病に関してはその部分なのでしょうが、「個人の権利及び義務を強調し」というのも同じことを言っているのでしょうか。</p>
<p>山川博之 研究員代表</p>	<p>そう捉えたところはあります。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>もう1点ですけれども、教科書によっては、ノートがついているところと巻末に書き込むような欄がつくってあるものといろいろありますけれども、今使っている教科書は日文なので、ノートになると思います。このノートの使い方としては、例えば、1時間の授業の中で書き込む時間を設けていらっしゃるのか、時間外に書くようにしているのか。また、道徳の評価をするときに、このノートとか書き込みとかが影響してくるのでしょうか。</p>
<p>山川博之 研究員代表</p>	<p>授業では、教師がノートに書かせて使っています。かつてノートがなかったときは、自分なりにワークシートをつくって、それをファイリングさせたりして工夫していました。道徳の評価については、例えば、ノートの中に自分を振り返るところがありますが、その振り返りを生徒に書かせることで、教師はそれを一覧にして、最初はこうだったけれどこの子はここが成長しているなど生徒の姿を見取ったりしています。生徒も、自己評価として自分の成長を見取ることができます。</p>
<p>岩野智典 研究記録員</p>	<p>補足させていただいてよろしいでしょうか。教材文の長さ、授業の流れ、生徒の書くことの実態などに応じて、全部ノートを埋めることもあれば、絞ることもあり、話し合うことも重要なので、生徒の実態などに合わせてノートを使っています。生徒側にとっては、書くことで自分の考えを整理することができ、それをもとに話し合いが活性化できますし、教師側からすると、もちろん観察等をしながらも見取るんですけども、ノートに書かれているものがあることで、生徒たちがこの時何を考えていたかしっかり見取ることができると思います。そして、道徳科の目標の中に示されている学習活動に照らして、「自分自身との関わりの中で深めている」「一面的な見方から多面的な見方をしている」といった点などについて、ノートに書かれたことも見取って評価していくことが大切です。書かれたノートは、学期ごとや年間で振り返ることができ、生徒の成長を教師及び生徒自身も実感できるといいですか、そういったところでどんどん活用されております。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>ノートは、書き込み箇所が多くあるので、この書き込みの時間をとると、</p>

		お互いに考え議論する時間が少なくなってしまう。お互いの意見を出し合 って、様々な違いに気付くといった部分がこれによって減ってしまうよう な気がするんですね。そういうことから考えると、先ほどの東書の2時間 で一つの題材を扱うということも考えながらだったらいいのではと思いま した。
山川博之	研究員代表	そこは、授業者によって、軽重をつけながら工夫しているところではあ ります。
遠藤洋路	教育長	以上で「道徳」について終了いたします。
岩本晃代	選定委員長	続いて、「社会（地理的分野）」の教科書の調査結果について、研究員の代 表が説明します。
		《安井琴美 研究記録員 説明》
岩本晃代	選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明します。
		《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》
岩本晃代	選定委員長	ただ今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結 果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路	教育長	それでは、協議に入ります。ご意見や質問がありましたらお願いします。
西山忠男	委員	教出と帝国は、地図の資料が確かに充実しています。ただ、両者を比較す ると、九州の島しょ部ですね、地図が、やはり帝国ですと174頁、教出 ですと177頁を比べますと、やはり帝国の方が島しょ部の位置関係が一 目で分かるんですね。特に、尖閣諸島ですけれども、これほど台湾に近い ということが分かるということは非常に重要なことであると思います。そ ういう意味で帝国が優れていると思うんです。それから、付箋4の調査の ところで、地形図の説明が充実しているのが、東書の144頁、それから、 帝国ですと134頁にありますけれども、東書と帝国の説明は非常に分か りやすくてよいという印象をもっています。どれもいいんですけど、そ れぞれいいところがあって悩ましいところではありますけれども、私は総 合的には帝国が良いという印象をもっています。
遠藤洋路	教育長	最初の観点の説明で、日文は「なぜ」という発問があるという説明があつ たんですが、見たところ見当たりませんが、どこにあるのでしょうか。
坂本美信	研究員代表	プレゼンに示した一覧表を見ますと、一番右が日文ですけれども、ヨー ロッパ州のところと、南アフリカ州のところにも「なぜ発問」が使われてい ます。なぜ発問は子どもたちの探究意識を高めるということから、効果的 だと考えています。
遠藤洋路	教育長	報告の中ではアジア州で説明がありましたが、アジア州にはないという

	<p>ことですか。</p>
<p>坂本美信 研究員代表</p>	<p>そうです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>「なぜ、～なのでしょう。」というのと、別の言い方で「理由は何でしょう。」となっているところとありますが、同じことではないのでしょうか。なぜという文字がなくても、理由を説明してくださいというのは同じ扱いと考えてかまわないですか。</p>
<p>坂本美信 研究員代表</p>	<p>そう考えていいと思います。なぜといったときは、生徒の立場で考えると、より良いかと考えます。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>報告の最初の概要のところ、デジタルコンテンツのことをお話いただいたかと思うんですけども、そこのところ工夫がされていることとか具体的に教えてほしいのと、帝国は「NHK for School」とありますが、それがどのようなものかも教えていただきたいです。</p>
<p>坂本美信 研究員代表</p>	<p>「NHK for School」は外部リンクになっておりまして、それぞれの学習の解説が見られることになっています。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>「NHK for School」は一社だけであったので、具体的にはどんな内容ですか。</p>
<p>坂本美信 研究員代表</p>	<p>具体的に内容を一つお示しします。（「NHK for School」の視聴）いろいろな単元がありまして、授業でやっているようなことを映像で見ることができるということです。</p> <p>QRコードを使った各社の特徴ですけれども、東書は外部リンクや技能、他教科との関連、そして、歴史的分野との関連があります。それから、教出は、外部リンクが中心で、単元ごとに分類されて掲示してあるので、子どもたちが実際に勉強しながら、もっと調べてみたいと思ったらすぐ読み取れるという点で、深い学びの方につなげていくことができるというふうに思っております。帝国は、アニメーション、学習のまとめ問題の答えなどがあります。外部リンクがなかったので、深い学びにたどりつくことが難しいのかなと、復習や確認、先ほどもあった「NHK for School」で授業でやったことの確認で活用できると考えます。日文は、学習のまとめ問題の解答があり、復習で活用できます。外部リンクもあるんですけども、「日本の諸地域」は充実していて、他の単元については少なく偏りがあるかと思えます。このようなことから、各社、それぞれ活用の特色があると感じています。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>感想を2点。1点はですね、日本の地域的特色の導入部分の整理の仕方というのは、地形からとか、気候からとか、自然からとか、あるいは人口からとか、学習に入るときの視点からいうと、東書、日文は非常に分かりやすく入り込みやすい印象をもちました。それからもう1点は、深い学びという点からいきますと、教出が、例えば日本でいきますと「現代日本の課題を考えよう」とか、世界でいきますと「地域から世界を考えよう」とか、コラムっぽいものがありまして、興味をもって読むことができ、深い学びに</p>

<p>坂本美信 研究員代表</p>	<p>つながるかと思いました。</p> <p>ありがとうございます。まさにその通りであります。日本の諸地域はそういったテーマをもって、自然だとか、人口だとか、あるいは他地域との結びつきとか、そういう視点をもって学ぶという単元であります。深い学びのところについては、新しい学習指導要領では、地球的課題が1つのキーワードになっておりますので、そういう視点で世界を眺めるということが大事なことになっております。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>先程の説明の部分をもう一度確認させていただきたいと思います。調べたことを発信するというので、まとめ、発表、発信というところに重点をおいた教科書があるという説明があったと思うんですが、もう一度、教えていただけてよろしいでしょうか。研究しただけや調べただけで終わりだったり、それを話し合いにもっていける教科書、発表までもっていける教科書もあったり、そういった深い学びについてもう一度教えていただけてよろしいでしょうか。</p>
<p>安井琴美 研究記録員</p>	<p>観点5で報告しました、三つ目の単元「地域の在り方」は、地域の課題をつかみ、課題解決を構想し、地域に発信していくということが求められています。この単元は、新学習指導要領で重視されました、社会参画の意識をどのように子どもたちにつけていけばよいのかということから生まれたものであります。この点から4社を比較すると、各社ともしっかりと工夫されておりました。ただ、教科書全体で捉えた時に、一つ目の「地域調査」では、地域にしっかりと関わって、子どもたちが地域に足を運んだり、地域の方と関わって考えたりする学習でありますので、ここでも、地域調査の方法を学ぶだけではなくて、自分たちがどんなことができるのかという視点をもって考えるのが重要であると考えまして、教科書の記述にそのような工夫が見られましたのが、東書と教出でありました。このような点から観点5を説明させていただきました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>私からももう一つ。先程の教出の報告の中では、アジアに関しての65頁ですかね、経済発展に欠かせないものということで、アジアに限らず共通するものを話し合うという内容になっていることは、すごく良いと思って同意します。ですが、それぞれの地域に関する学習テーマについて、アジアでは「なぜ経済が発展したのだろうか。」となっていて、アジアに関しては悪くない気がしますけど、ヨーロッパは、「ヨーロッパでは、なぜ、国々の結びつきは強まったのだろうか。」、アフリカは、「アフリカでは、なぜ他地域からの支援が必要とされるのだろうか。」、北アメリカは、「北アメリカでは、なぜ先進的で多様な産業が発達したのだろうか。」ということで、アフリカは他地域からの支援が必要な地域です、北アメリカは先進的で多様な産業が発達した地域ですと、そういう決めつけがあるように感じます。少し質問が狭すぎて、そういう視点で最初から入っていくという点について、はたしてそれで良いのかが気になります。だから、ちょっとその「なぜ」と問うことが良いとは私は思わない。</p>
<p>坂本美信 研究員代表</p>	<p>ありがとうございます。発問にはいろいろな仕方があって、「なに発問」、その後に「なぜ発問」があり、「なぜ発問」は探究を促すものであります。</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>ここでとどまっていると、先ほど言われたように、そのままなのかもしれません。しかし、その後の発問「どうなる発問」「どうする発問」までいくと、子どもたちの思考がどんどん深まっていきます。アフリカにこれからどんな支援をしていけばいいのか、これからどうなるのか、それこそ未来志向で考えていく、そういうところまでいけばよいと考えております。</p> <p>私が今申し上げたのは発問の仕方ではなく、その地域のテーマの見方があまりにも狭いということを言っております。例えば、帝国書院であれば「アフリカ州の国々では、特定の産物に頼る経済が、地域にどのような影響を与えているのだろうか。」とありますよね。「アフリカでは、なぜ他地域からの支援が必要とされるのだろうか。」という、その問いの立て方自体がいかげなものかということを行っている。アフリカへの見方が偏る、あるいは、他の地域に対しても、あまりにもその地域の一面しかとらえていない問いになっているのではないかと考えています。</p>
<p>坂本美信 研究員代表</p>	<p>全ての面からは、なかなか捉えることが難しい。その州を代表する面からの捉え方ということで、現中学校の教科書では学習することになっています。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>その捉え方が各社違って、教出は狭すぎるのではないかと考えています。他のところの方が、もう少し創造的な角度から設定しているように感じます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>他に意見はないですか。ないので、以上で「地理」について終わります。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>続いて、「技術・家庭（家庭分野）」の教科書の調査結果について、研究員の代表が説明します。</p> <p>《栗田佳代 研究記録員 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明します。</p> <p>《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>ただ今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議に入ります。では、家庭についてご意見・ご質問はありますか。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>東書が全体的に優れているのは確かだと思います。防災に関しては、東書は巻末に防災手帳があり、それも優れている点だと思います。開隆堂は巻末に災害から命と生活を守るという視点で掲載してあり、優れた付録になっていると思います。教図は特設の防災の頁はないのですが、栄養学的な観点でとても優れていると思いました。東書の33頁、開隆堂の85頁、教図の88頁を比較すると、どれも食品群別摂取量の目安が取り上げてあ</p>

	<p>りますが、教図が非常に詳しく書いてあります。特に、95頁から成分表が取り上げられていますよね。子どもたちが授業で活用するかは分かりませんが、教育の仕方によってはとても役に立つ。このように、栄養学的には教図は素晴らしい特徴があると思います。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>目次を見ると、順番が違いますね。東書だけが最初に食生活で、他の2つは家庭生活から始まりますよね。東書だけが違うのですが、この違いはどのように現場では感じておられるのでしょうか。また、現場としてはこれが良いと思っておられるのかをお聞きしたいのですが。</p>
<p>白川悦子 研究員代表</p>	<p>家庭科の授業の最初にあるガイダンスで3年間全体を見通す授業を行います。自分の家庭生活を振り返るところから見通しを持たせていきます。熊本市内の多くの学校においては、食生活を1年生で実施し、3年生で生活の主体者として家族や地域について考えていくのが全体的な学習の流れになっています。東書の学習の流れは、そういう意味で全体的な流れとして合っていると思います。ただ、どの並び方でも学校ごとに年間計画を立てながら進めていくので、食生活からでも家族と家庭生活からでも大丈夫だと思っています。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>ということは、学校単位で自由に学習する順番は組み替えても良いということなののでしょうか。それとも、熊本市では東書の順番でやっているということなののでしょうか。</p>
<p>白川悦子 研究員代表</p>	<p>どの学校でも、学校裁量で順番は組み替えてやっていいんですが、大まかな学習の流れは研究会で揃えて提案しております。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>細かいことなんですけれども、東書にはパラパラ漫画がありますが、テーマはあるのでしょうか。途中からリサイクルなどが出てくるんですが、どんなテーマがあるか教えてください。</p>
<p>栗田佳代 研究記録員</p>	<p>パラパラ漫画は、ネットからコンテンツをダウンロードして、パラパラ漫画にかざすと、3年間の学習の内容が3Dのように浮きあがってくるという特徴があります。ですので、家庭科の学習に興味を持たせるといった意味で載せられているのではないかと思います。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>これは結構考えてあって、買ったズボンをリサイクルして小物にして、作ったものをおじいちゃんたちあげるなど、きっとテーマがあるのだろうと思うので、子どもたちも興味を持つかもしれないなと思いました。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>教科書の概要の説明の中で衣食住の比較の報告があったと思うのですが、食生活や衣生活の題材に違いがあったように思ったのですが、そのへんについては何かコメントや説明がありますか。こんなに違っていいのかなと思ったもので。</p>
<p>栗田佳代 研究記録員</p>	<p>ここには、教科書ごとに特徴的というか工夫されているものを載せております。例えば食生活については、肉料理、魚料理、野菜料理という感じできちんと構成してあります。どの教科書でもハンバーグやしょうが焼きな</p>

	<p>ど、調理の基礎基本を学べるような、そして、科学的な食材の理解もできるようなそういう題材が挙げてあります。ここに挙げているのは特徴的な、例えば、持続可能や防災といった視点で挙げられている教科書会社の特徴的な題材のみについて説明をしました。衣生活の題材数の違いについては、東書が、豊富な数、載せられています。こども、平面構造から立体構造というふうにもいろいろな題材が載せられています。リフォームやリメイクについても、東書は豊富に掲載されています。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>私からも1つ。開隆堂は、教科書展示会の意見でも余白が多いという意見があってそうだなと思います。例えば52頁の左側にある吹き出しと人が全然違うところに書いてあったりしますが、これは何ですか。嫌いではないんですが。</p>
<p>白川悦子 研究員代表</p>	<p>イメージで示されていると思います。こういう意見が生徒から出るかもというところで書かれてあるのではないかと思います。空白に関しては、とても見やすいということで、研究員からもこういう頁構成をしてもらおうと逆にいいという意見もありました。東書のパラパラ漫画と同じで、教科書に興味を持つ、内容にイメージを膨らませるということで、より親しんでもらおうという工夫だと思っております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>確かに興味は持ちます。卵みたいなキャラクターなど、名前も出てこないの不思議に感じるんですね。完成していないのではないかと思います。完成してない部分があるんですね。例えば294頁の災害についての地図に沖縄がないし、伊勢湾台風は奈良に線が引っ張ってあって、いろんなところで未完成なところが目につくんですね。この教科書で学ぶと混乱するのではないかと思います。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>開隆堂のハンバーグの作り方は非常に見やすく作りやすい印象を受けました。教図は127頁に作り方が縦に書いてあるんですが、東書も開隆堂も横に書いてあるんですね。作る時は横が見やすいと思うんですね。開隆堂は空きが多いという批判もあるかもしれませんが、全体的にすっきりしていて見やすく子ども達には分かりやすくいいと思いました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>他によろしいですか。 では、「技術・家庭（家庭分野）」について終わります。 以上で本日の協議を終了します。</p>